ー ・国際拠点港湾「仙台塩釜港」塩釜港区の将来像 再認識された天然の良港への期

物流・観光・防災と複数の機能・役割を持つ港は、震災を機に天然の良港であることが再認識され 以来千数百年にわたり、地域に繁栄をもたらし、人々の暮らしを支えてきました。 今後とも「地域産業支援港湾」としての重要な使命に期待されています。 奈良時代、国府多賀城の津に始まると伝えられる「塩釜港」。



10月には石巻港、松島港が統合されて統

合港湾「仙台塩釜港」となりました。

船が入港し埠頭を使用しながら復旧整備が 実施された東埠頭

港区」で、港湾管理者は宮城県です。平 成13年4月、重要港湾から特定重要港湾 中核的国際拠点港湾 (現在の国際拠点港湾)に昇格。 平成24年 塩釜港の正式名称は、「仙台塩釜港塩釜

東北をけん引する

発展を図ろうとしています。 東北全体の産業・雇用・暮らしを守り す。各港の特色に応じて役割を分担して、 る中核的国際拠点港湾」を目指していま 新たな仙台塩釜港は、「東北をけん引す

沿って今後の港湾整備(開発)が進めら 台塩釜港港湾計画』を改訂、この計画に 統合翌年の平成25年6月、 県では『仙

時の支援機能の強化」の4項目が基本方 安心】防災基盤の拡充と大規模地震発生 能の強化」「【環境】港湾空間の特色を活 の強化」「【交流・観光】港湾観光拠点機 港湾機能の再編・集約化による物流機能 かしたアメニティ空間の充実」「【安全・ 計画の改訂に当たり、「【物流・産業】

針として挙げられています。

の玄関、第二管区海上保安本部のある海 点であり、日本三景松島や浦戸諸島観光 が期待されます。 て、その重要な使命を果たしていくこと 基地と、複数の機能と役割を持つ港とし 水産品や石油製品、飼肥料などの物流拠 域産業支援港湾」という位置づけであり、 上防災拠点、海洋性レクリエーションの 統合港湾における「塩釜港区」は、

復旧で、燃料不足の解消に貢献 ″天然の良港〞ならではの早い

港して、被災地における燃料不足の解消 を開始し、以後3月31日までに20隻が入 に大きく貢献しました。 震災後わずか10日で石油タンカーが入港 啓開作業により、他の港に先駆けて復旧。 事実、震災では、関係機関による航路の 特徴がある、まさに「天然の良港」です。 然災害の影響を受けにくいという地形的 「塩釜港区」は、波が穏やかで気象や白

を受けました。現在、被害を受けた施設 面なども破損しました。また、隣接地域 の沈下や陥没が発生、埠頭上屋や舗装路 ではなく、港湾施設貞山埠頭のエプロン の復旧が最優先で行われています。 にある事務所・倉庫等の民間施設も被害 しかし、震災の被害が皆無だったわけ

スペースの拡大などの整備に加え、再び 向けて、岸壁や貨物の積み下ろしを行う 使いやすい埠頭づくりと物流の効率化に 港湾計画における今後の整備としては、



震災後初めてのタンカーの入港(平成23年3月21日)



成25年度以降も事業を延長しており、

による施設使用料の減免措置との相乗効

塩釜港区の利用促進を図ります。

年度補助申請量は、

減少しましたが、

影響による取扱量の減少に伴い、進補助事業を実施してきました。

平 戻 成 災 23 の 年度から水産品に対する塩釜港区利用促

えた取扱貨物量の増加策として、平成21

給油を待つ車列



震災後1年半を経て復旧工事が本格化(平成24年11月6日)

市では、仙台港区との機能分担を踏まかさ上げ工事が予定されています。られるよう、地震に強い岸壁や防潮堤の災害が発生した際に影響を最小限に止め

(単位:t)

■塩釜港区の主要な取扱貨物量の推移

品類·品種	2010年(平成22年)	2011年(平成23年)	2012年(平成24年)	2013年(平成25年)
石油製品	1,026,697	1,906,238	1,561,279	964,555
重 油	282,230	417,019	298,173	275,794
セメント	298,154	432,273	508,279	574,280
砂利・砂	40,795	22,885	106,682	179,472
金属くず	115,359	122,738	232,666	231,719
水産品	43,609	8,627	34,181	22,250
その他	286,044	185,559	229,903	222,824
計	2,092,888	3,095,339	2,971,163	2,470,894

2

長期総合計画に沿った港奥部の整

沈下対策などを促進します。 防潮堤のかさ上げや根本的な地盤

備を推進するとともに、

沿岸部の

れる都市基盤を形成します。住民が安全・安心に暮らし続けら

産業・経済の復興を実現港湾機能の強化促進で、

進を掲げています。 済の復興の柱の一つに港湾機能の強化促「塩竈市震災復興計画」では、産業・経

られる予定です。

ントも開催できる緑地空間の整備が進め

住民の安全確保を図りながら、海や海洋防潮堤機能を有する護岸を整備して地域さらに、港奥部においては、県事業により、施設を建設する事業に着手しています。

|物に触れられる親水機能を持ち、

式步道)

や備蓄倉庫を併設した復興拠点

ゲート塩釜付近に津波避難デッキ(高架

工場の誘致を促進するとともに、

マリン

また、港周辺地域の整備を行い、企業・して船舶の塩釜港区利用促進を図ります。業などを継続、ポートセールスなどを通業などを継続、ポートセールスなどを通りの災害復旧事業や港湾計画にある施設整具体的には、港湾施設・海岸保全施設具体的には、港湾施設・海岸保全施設

■復興の方向性港湾機能の強化促進

安心して事業を継続できるよう、 安心して事業を継続できるよう、 安心して事業を継続できるよう、 を促進します。 また、老朽化した上屋の集約移 また、老朽化した上屋の集約移

現在・未来/漁業・水産業・水産加工業

〜水産業・水産加工業の復旧・復興幹 産業の嫌づくり

高度衛生管理型を柱とした新魚市場整備は、「塩竈の未来の礎づくり」となる一大事業です。 古くから海とともに暮らし、港とともに発展を遂げてきた塩竈。 震災後、早期復旧を果たし、平成23年の水揚げ額約 104 億円となった塩竈市魚市場。

水産業・水産加工業の復旧・復興、さらなる発展は、多くの市民の願いに違いありません。



震災が襲った 新たな歩みを始めようとする時、

興」を掲げました。 つとし、主要施策として「魚市場の活性化_ も数多く集積します。平成23年度にスター よび冷蔵保管業、小売業、水産加工会社 水産業に密接に関係する製氷業、冷凍お 生鮮本マグロ水揚量太平洋側一。また、 生鮮メバチマグロ水揚量日本一、そして、 です。平成23年水産物流通調査によれば、 カキ、ワカメほかの浅海養殖漁業が盛ん の島々に囲まれ、穏やかな天然の良港「塩 発展を担ってきた基幹産業です。松島湾 トした市の「第5次長期総合計画」では 水揚げ港としてにぎわう一方で、ノリや 釜港」。はえ縄や旋網による生鮮マグロの 「水産加工業の振興」「浅海養殖漁業の振 「活力ある産業のまちづくり」を目標の一 水産業および水産加工業は、

業活性化検討協議会を組織し、高度な衛 時期を迎えていました。そこで、 魚市場は荷さばき施設が老朽化し、更新 しかし、昭和4年に開設された塩竈市 震災の前年の平成22年から地域水産

陸送物による 震災後初のセリ (平成23年4月4日)

> そうした新たな歩みが始まろうとした時、 害を受け、復旧・復興の途上にありました。 ワカメやコンブといった漁獲物はもとよ は、平成22年2月のチリ地震津波により めました。一方、同時期、浅海養殖漁業 生管理が可能な新魚市場整備の検討を進 震災が襲いました。 養殖施設が流出するなどの甚大な被



「魚市場整備事業」のパース



新魚市場整備は 「本市経済界の心臓」である 一大事業

時の川 ければ本市の成長はない」。昭和55年10月、 市場五十年の歩み』の発刊にあたり、 「塩釜市魚市場開設50周年記念 が近代化されても、 魚市場はいわば本市経済界の心臓であ 仙石線が高架複線化し、 :瀬基治郎市長は序文にそう記しま 魚市場の発展がな 市内の商店 塩釜市魚 当

旧事業にあわせて推進します。

揚施設の応急復旧が行われ、 りを全国に示したのです。 90トンが水揚げされ、 水揚げしたのは大分県船籍の第18宝陽丸。 の水揚げが再開されました。4月14日に ら陸送物の上場が、4月14日からは漁船 裂が生じるなどの被害を受けましたが、 メバチマグロなど生鮮マグロ約 800 本 (17トン)を皮切りに、 魚市場は震災で荷さばき所や岸壁に亀 塩釜漁港の健在ぶ 4月25日までに約 4月4日か 水

説明会を開催しました。 組合との共催で、 産振興協議会・塩釜市魚市場買受人協 意見の調査を実施、 を組織したほか、 第3種漁港流通拠点整備推進検討委員会 性化検討協議会の後、 動き出しました。市では、 [されたメンバーによる「作業部会」 |備に係る設計業務に参画するため、 市水産振興協議会内に関係団体から選 応急復旧を受けて、新魚市場整備は再び 水産関連団体の現状と 新魚市場整備に関する 年度末には塩釜市水 平成24年度に特定 また、 地域水産業活 新魚市場

> 設置。 大事業です。 さかなのまち塩竈」の未来の礎となる ル る新魚市場整備は、 に10回にわたって検討を重ねました。 であり、 こうした経過でまとめられ、 英知を結集し、 「水産都市 まさに復興のシンボ 平成25年度末まで 塩竈」「おいしい 実施され

棟は、 魚 種 る施設です。 利用を想定しています。 習室などを設け、 積3248平方メートルで、 防ぐシャッターや浄水・洗浄設備などが ばき所は、 棟には研修施設や地魚直販施設、 施設の中心となるA棟には荷さばき施設 全・高品質な水産物を届けることができ 整備された、衛生機能が高く、 (生鮮魚)に加えて見学施設が、 A棟・B棟からなる高度衛生管理型荷さ (主に冷凍搬入魚)を扱います。 コンクリート造2階建、 鳥や獣、 平成26年3月に着工したB 魚食普及活動などでの ほこりなどの侵入を さまざまな また、C 延べ床面 安心・安 調理実 また、

C棟の建築工事の契約案件が議決され 型荷さばき所A棟と荷さばき所補完施設 よいよ着工されることになりました 平成26年度12月定例会で高度衛生管理

1

県による塩釜漁港の災害復 《新魚市場施設配置図》 ◎新魚市場のコンセプト ■新魚市場整備事 3 2. 使いやすく、 1. 高度な衛生環境を経済的に持続する 安全で安心な防災機能を備えた施設 域の誇りとなる施設にします。 施設を整備し、「塩竈ブランド」 にやさしい施設にします。 太陽光エネルギー 市民や観光客が集う地 荷さばき所補完施設 C 棟 の導入など、 (コンクリート造 4 階建) 貸事務室 を高 環境 地魚直販施設、食堂 調理実習室、会議室 荷さばき所、研修施設 高度衛生管理型荷さばき所 A 棟 選別工 高度衛生管理型荷さばき所 B 棟 (コンクリート造3階建) (コンクリート造2階建) 一上都庄 船員休憩室、 電気室 管理事務所、 見学説明室、 荷さばき室、管理室、入札室 設備スペース 電算室、検査室 荷さばき所、入札室、低温室

2階

1 階

3階

1階

管理室

休憩室

3つの復興関連事業 水産加工業の復興を支援する、

だったと関係者は安どしましたが、それ による被害を免れることができました。 たが、塩釜漁港の防波堤に守られ、津波 後さらに進行するなどの被害を受けまし ある水産加工団地では、地盤沈下が震災 3月20日には同地区への電力供給が再 新浜地区にある水産加工業の集積地で 大量に保管された加工原魚は無事

する24日までの間、懸命の作業を続け無 ンクを確保し給水を行い、給水管が復旧 業界団体と市は、急きょ共同で給水タ 原魚を守りました。

供給されないため冷却は再開されません

もつかの間、

クーリングタワーへの水が

度を柱にさまざまな施策を実施。その中 心が3つの復興関連事業でした。 の復興を支援するため、 市では、 被災した水産加工業 国や県の支援制



用者負担)。平成23年12月完成、平成26 理費など入居後に係る一切の経費は利 貸与するものです(光熱水費、衛生管 場(事務所を含む)を整備し、 早期事業再開を支援するため、仮設工 市内で被災した水産加工業者に対し (独立行政法人中小企業基盤整備機構) 無償で

◎水産業共同利用施設復興整備事業

(復興庁所管東日本大震災復興交付金事業

者を対象に、施設整備について復興交 被災した漁業者団体や水産加工流通業

付金を活用し、国とともに支援するも

②仮設水産加工開放実験室 (新浜町): ①仮設水産加工場 (新浜町):4区画

> 8事業所で操業を開始。平成27年度に 事業所が水産加工場などの整備を進め、 月現在、事業として採択された9つの のです (補助率7/8)。平成26年12

□事業所が完成予定です。

年12月現在、

4区画が稼働中です。



仮設水産加工場

仮設水産加工開放実験室

水産業共同利用施設復興整備事業の活用例

◎水産業共同利用施設復旧整備事業 (水産庁所管事業)

組合など水産関連の組合が行う地域の 被災した漁業協同組合や水産加工協同 国・県が補助 化を図るための施設整備 加工流通機能の回復や衛生機能の高度 する事業です。 (補助率:上限5/6 (1) (4) **&**

①漁協・水産加工協等共同利用施設復 旧・復興関係

④漁港施設復旧・復興関係 ②養殖施設復旧・復興関係 ③放流用種苗生産施設復旧 復興関係





浅海養殖漁業 (アサリ)

■ 温船 俊善 (単位:十円)										
	塩釜第一支所		浦戸支所		浦戸東部支所		塩釜市漁協		合計	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
動力船 5t 以上							2	65,000	2	65,000
動力船 5t 未満	10	125,000	1	12,500	1	12,500	3	37,500	15	187,500
船外機	43	38,700	30	27,000	36	32,400	57	51,300	166	149,400
合計		163,700		39,500		44,900		153,800		401,900



2年続けて全てを流された」「復旧させた矢先に…。

浦戸諸島により外洋から守られた松島浦戸諸島により外洋から守られた松島浦戸諸島により外洋から守られた松島浦戸諸島により外洋から守られた松島浦戸諸島により外洋から守られた松島浦戸諸島により外洋から守られた松島浦戸諸島により外洋から守られた松島浦戸諸島により外洋から守られた松島



浅海養殖漁業(ノリ)

物を販売しているそうです。3名もそれぞれに店を構え、生産した水産ます。そこでは、同じ漁協の仲間(組合員)ら生産したワカメやコンブを販売していおがま・みなと復興市場」に出店し、自おがま・みなと復興市場」に出店し、自

質のワカメ生産に取り組んでいます。質のワカメ生産に取り組んでいます。 と水間さん。所属する第一支所では、水産物に付加価値を付け、宣伝し、ブランド化するという務めがあります。塩竈の浅水産庁の補助事業の「水産業共同利用施設水産庁の補助事業の「水産業共同利用施設水産庁の補助事業の「水産業共同利用施設水産庁の補助事業の「水産業共同利用施設水産庁の補助事業の「水産業共同利用施設水産庁の補助事業の「水産業共同利用施設のも、資産を導入し、組合員一丸となって高品通し釜を導入し、組合員一丸となって高品通し釜を導入し、組合員一丸となって高品通し金を導入し、組合員一丸となって高品通し金を導入し、組合員一丸となって高品を対象があります。

どの復旧支援、施設整備を行っています。ジアップ事業、利用できる助成金の紹介な事業を実施。ブランド化を支援するイメー事業のほか、塩竈市浅海養殖漁業振興対策



最新式の自動湯通し釜

塩竈らしい二つの出来事市民に元気を与えた

ほどの量だったそうです。
はどの量だったそうです。
ほどの量だったそうです。
にどの量だったそうです。
にどの量だったそうです。
にどの量だったそうです。
にどの量だったそうです。

業を再開できたのです。その後、地盤沈水産業・商業・観光業の拠点の一つとし水産業・商業・観光業の拠点の一つとした。押し寄せてきた漂流物を入口をでした。押し寄せてきた漂流物を入口を微であったことから、3月17日には市軽微であったことから、3月17日には市軽微であったことから、3月17日には市をでした。井し寄せてきた原が地域にある。



塩金仲却イッテンスメング

震災から1カ月半後のことでした。手。完全復旧はゴールデンウィーク前、下で損傷した地下貯水槽の復旧工事に着

平成26年10月5日、仲卸市場の6号売 場に新しい交流スポットがオープンしま した。それが「塩釜仲卸キッチンスタジ した。それが「塩釜仲卸キッチンスタジ をもや主婦の方向けの料理教室の開催が 予定されるほか、一般の方向けの貸し出 しも行うなど、魚食文化の普及と市場に しま行うなど、魚食文化の普及と市場に で期待されています。

が飛び交います。 きな屋根の下では、今日も威勢のいい声「塩竈の海の元気を全国へ」。仲卸の大

達成を目指して事業を推進水揚げ額目標120億円。

を訪問し、意見交換を実施しました。 無別の水器げを支える遠洋底曳網漁業の水場が、魚市場へ運搬し、選別・販売しています。運送費は生産者負担です。そこで、います。運送費は生産者負担です。そこで、います。運送費は生産者負担です。そこで、がます。運送費は生産者負担です。そこで、がます。運送費は生産者負担です。そこで、がます。運送費は生産者負担です。そこで、がまず。運送費は生産者負担です。そこで、がまず、運送費は生産者負担です。そこで、漁船がませ、無利の大力に対する補助することにしたのです。また、漁船が調がです。

今後もさまざまな事業を推進します。120億円。その目標を達成するため、新魚市場の目標とする水揚げ額は

取り戻すために

事業所数

3,000

2.500

2.000

1,500

1.000

500

0

〜商工業の復旧

先人は地域資源を活用し、

街の基礎となる商工業を育ててきました。 漁業や水産加工業、 港湾関連業など、 海と人との営みを進化させ、

こうした不屈の歩みは私たちの誇りであり、 道しるべでもあります





平成23年4月2日に開催された塩竈復興市

「被災者支援施策説明 ワンストップ相談会」

■お同い合わせ先 塩釜商工会議所中小企業相談所 東北経済産業局産業部中小企業課

した。 として「塩竈市シャッターオープン事業 費者の回帰と地域経済の活性化を図りま 商品券」を平成21年に販売、 給付金と連動させた1割増 しました。 (対象経費の一定割合分を補助)」 こうした状況を受け、 さらには、 商店街の空き店舗対策 塩竈市では定額 「どっと塩 市内への消 一を実施

竈

店街が津波に襲われたのでした。 そうした施策が成果を上げつつあった 海岸通や本町、 宮町など中心部の商

中

运 斯爾市茲英見舞務語表

塩竈市

震災見舞商品券

地域経済活性化 震災前から取り組んでい この課題 た

Ł 日を調査期日とする商業統計調査による 133億400万円の大幅な減少を示し 売額は1351億円と、 は1068事業所と、 ました。 震災前に実施された、 市内で卸売・小売業を営む事業所数 と比べ98事業所減少、 前回調査 平成 19 前回調査より 年間商品販 年6月 (平成 16

> 商業(卸売・小売業)の推移 従業者数(人) 年間商品販売額(千万円) 30,000 従業者数 年間商品販売額 25,000 事業所数 20.000 15,000 10.000 5,000 昭和60年 63年 平成3年 19年 6 14 16

するなど、 被災地第1号の仮設店舗を開 事業を次々に実施

設

設け、 事業」 中小企業診断士による個別相談の機会を を次々に実施。 市では平成23年度内に「シャッター 震災見舞商品券事業」「復活!塩竈商人塾! なる仮設店舗を8月にオープンしました。 談会」を開催。 商工会議所、 る 制度があることを紹介するとともに、 施策として、 震災後、 「被災者支援施策説明ワンストップ相 また、各機関によりさまざまな支 被災事業者の再開を支援しました。 プラス事業」、 「仮設店舗設置運営事業」 被災した商工業の復興を支援す 東北経済産業局の主催によ また、 地域経済の再生に努めま 6月16日には、 「り災商店再生支援 被災地でトップと 市と塩釜 塩竈市 オー



◎シャッターオープン・プラス事業

対象経費の一定割合分を補助する事業で 対象地域を市内全域としました。 す。店舗を商店会・商店街に限定せず、 は2分の1、3年目は3分の1 補助率上限:1年目は3分の2、 補助期間:3年間 2年目

◎り災商店再生支援事業

援するため、店舗の修繕など建物の工事 市内で被災した商工業者の事業再開を支 活用した事業者:396 件 に要した費用の一部を補助しました。 支援額:震災の被害区分により、所要額の ※台風15号での床上浸水の被害 半壊10万円が上限 全壞30万円、大規模半壞20万円、 範囲内で、30万円を上限に支給 は、半壊と同様の取り扱い

◎仮設店舗設置運営事業

業を再開できない中小企業者などに、仮震災で店舗や事務所等に被害を受け、事 釜の隣接地に新たなにぎわいを創出する 月のオープンで話題を呼びました。マス コミにも取り上げられ、マリンゲート塩 こととなりました。 の被災地の仮設店舗ではトップとなる8 盤整備機構)を無償で貸与しました。 設施設(設置は独立行政法人中小企業基 しおがま・みなと復興市場」は、震災

区画数:20区画 海岸通地区仮設店舗 入居事業者数:16店 「しおがま・みなと復興市場_ (平成26年12月1日時点)

区画数:5区画 本町地区仮設店舗 「しおがま本町・くるくる広場」

人居事業者数:4店

(平成26年12月1日時点)

施に向けた個別相談会や事業説明会が各

た地域の住民の生活再建と復興事業の実 オープン。同じころ、津波の被害を受け 月にはマリンゲート塩釜がリニューアル

平成24年3月に観光物産案内所が、7

復興の歩みを力強く

地域経済の再生と活性化を促し、

◎塩竈市震災見舞商品券事業

災見舞商品券」を配布し、生活支援およ 世帯に、市内の商店などで利用できる「震 震災による住家の被害が一部損壊以下の 参加店:560店 発行総額:1億8095万円 び地域産業復興の一助としました。

◎復活!塩竈商人塾

訓練により、商店街を構成する個店力の 商店街振興のため、民間コンサルの研修 向上を図る事業で、震災前から実施して 携して復活に向けて取り組む決意や活動 いました。被災した平成23年の「あきな 連

方針を語り合いました。 3回にわたって車座熱論会を開催し、 い講座」では、震災からの復活を目指し、



塩竈ニコニコ2割増商品券。取扱店全てで 使える「共通券」(ブルー)と、小規模店舗 のみで使える「専用券」(ピンク)の2種類

施しました。 の再生と活性化を促す施策を継続的に実 地で始まりました。復興に向けた歩みを より力強くするために、市では地域経済

◎地域産業振興事業

え、震災後、約6割に落ち込んだ交流人 口の回復と地域経済の復興を目的に、首 スティネーションキャンペーンを見据 平成25年春に開催させる仙台・宮城ディ ました。 品を PR するキャラバン活動を展開し 都圏ほかの全国各都市で観光および特産

◎しおがま

本智

まちゼミ

両立を図りました。

円の組合せで販売し、市民の利便性の

確保と地域商業者の売上げへの効果の

店舗でのみ利用できる専用券 7000

利用できる共通券 5000 円と小規模 した。商品券は、中・大規模店舗でも 地域経済の活性化を図るため実施しま

なって、取り扱う商品を題材に、プロ

本町通りにあるお商の店主が講師と 本町通りまちづくり研究会の主催で、

都庁ほか) (平成24年10月24日: JR 大宮駅、東京 ・しおがま『食と観光』首都圏キャラバン

◎塩竈観光物産案内所開設一周年記念事業 25年3月16日~6月30日に塩竈観光物産 ネーションキャンペーンに合わせ、平成 るクーポンを発行。仙台・宮城ディスティ 参加店で5パーセントの割引が受けられ 案内所で配布しました。

◎塩竈復興!新春ディスプレイコンテスト 市中心部の参加各店が、「復興の新春 希望の春の彩りを演出し、復興に向けて 協力により開催し、平成25年12月28日~ を演出し、人気投票をしてもらうコンテ をテーマに店頭のショーウィンドウなど 26年度は39店舗が参加して開催しました。 平成26年1月14日の期間、28店舗が新年・ ストです。本町通りまちづくり研究会の 力強く歩む姿をアピールしました。平成

◎「塩竈ニコニコ2割増商品券」の発行 会議所が割増商品券を発行した事業で 市が交付した補助金により、塩釜商工 起と市内商店の売上げ向上を通じて す。生活支援よる市民の購買意欲の喚

(平成25年2月28日:北東北) など 仙台・宮城 DC 東北観光キャラバン

築いて、塩竈商人のファンを増やしま

す。26年度のスタートで、5講座、

6回の開催です。

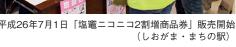
みながら、店主のこだわり、技、知識、 な年代の方々と店主とが、交流を楽し 体験できる小さなゼミです。さまざま の技や知識を楽しみながら学んだり、

人柄等を伝え、お客様との信頼関係を

※水産業、水産加工業の復興支援事業は P 116~ する主なイベントは P124~125で紹介してい 119、震災後に開催された「塩竈の食・味」に関



平成26年7月1日「塩竈ニコニコ2割増商品券」 (しおがま・まちの駅)



しおがま 本町 まちゼミ

するとともに、

玉 •

県等の支援策を積極

的に情報提供し、

活用を促進します。

できるだけ準備期間を確保できるように

V)

っます。

入居されている事業者の早期の

本設移設に向けて、

工事との調整を図り

舗の運営を終了する時期が近付きつつあ

潮堤・港湾施設の災害復旧事業が動

おきだ

「港町地区津波復興拠点整備事業」

ゃ

防

したことを受けて、

市内2カ所の仮設店

支 仮

設

店

舗

入

居

者

の

本設

移設

を

え援。

会員事務所の再生に全力を尽くす危機感を持って、

水し、 訪れ、 キクニに開設。 の 切迫した状況を訴えます。何とかし 関係の相談が多かったと言います。 開設当初は業務再開の目途が立たず雇用 用保険関係の相談に当たったそうです。 久信広さん。 工会議所 ればと思いました」 員を解雇しなければならない』といった 泥で汚れていた会館を会員さんが次々に 相談窓口を桑原茂会頭の会社である㈱ 「3月14日、 壊滅状態でした。 『廃業しなければならない』、『従業 (以 下、 会館は津波により1階が浸 復旧作業を始めたばかり 災害融資や公的助成、 会議所) と語るのは、 3月23日に臨時 事務局長の大 塩釜商 なけ 雇

下、グループ補助金)」への対応でした。業等グループ施設等復旧整備補助金(以るため精力的に取り組んだのは、「中小企商工会議所の職員が業務再開を支援す

平成 25 年 6 月、衆議院特別委員会で意見陳述する桑原茂会頭。会員事業所の現状や塩竈の課題について訴えた

平成23年3月、津波襲来 直後の商工会議所会館 平成23年5月、日本商工 会議所岡村正会頭(当時) へ要望する桑原茂会頭

> るなど、 ①サプライチェーン型、 明会を複数回開催。 けられるものです。 作成し、県の指定を受ければ、 もに頑張ることができました」と大久さ で市内の商工業の復興状況と課題を訴え 頭に立って国や県、 を持って取り組みました。桑原会頭が先 かしないと塩竈がだめになる』と危機感 た事例もあります。ですが、『ここで何と 化するのは大変です。 窓口として取りまとめ作業に当たったの どの諸条件を説明するとともに、 された中小企業対策事業の一つで、 グループ補助金は国の補正予算で事業化 !ベ 300 件を超えるといいます。 あること、震災前の原状復旧が原 復旧事業費の4分の3以内の補助が受 中小企業によるグループが復興計画を (食品)加工業型、⑤商店街型の種類 グループ補助金に関する相談件数は、 ③地域に重要な企業集積型、 「小規模な事業者の方々をグループ 精力的に活動し、 グループの構成には、 市に度々陳情。 平成23年秋から、 かなり時間がかかっ ②経済・雇用効 会員さんとと 施設など 申請の ④ 水 複数 玉 則 説

歴史を再認識すること「塩竈ブランド」の掘り起こしと、

で被災した企業の販路回復を図るため、開催されました。このイベントは、震災達な商談会・「「SHIOGAMA」が塩竈の地場産品の魅力をアピールする「伊平成26年8月27日、全国のバイヤーに

東北六県商工会議所連合会などが主催し



会頭の国会での意見陳述 日商ほかの経済団体への要望

■塩釜商工会議所による 主な復旧・復興事業

◎被災企業と地域の復興支援

臨時相談窓口を設置し、

各種相談に

また、

- 市内全会員を訪問、 専門家による個別相談会の開催 ニーズ等を調査
- 「マル経災害特別融資」 「グループ補助金」のとりまとめ の利子補給

開催。

各種公的支援制度の活用セミナー

制度の実施

- 復興支援講演会の開催
- 遊休機械無償マッチング事業の実施 再生 PC 無償提供事業の実施

 \Box

被災企業復興支援リース補助事業の

ど

「塩竈市震災見舞商品券」の受付、

語るのは、

ん。

新し

「塩竈ニコニコ2割増商品券」 の発行

◎復興 PR 活動

- 販路回復に向けた 記録誌『心を合わせ 「復興見本市」 復興 0 の
- 作成と全会員への配布 『がんばっぺ!塩釜』ステッ カー \dot{o}
- 販売
- 各地での復興応援物産展の開催
- 被災地視察への対応

◎要望活動

市

県、

復興支援イベントへの参加 国への要望

会員企業の復興と地域活力の再構築を目標に、 さまざまな復興 支援活動に取り組んできた商工会議所の三役。 写真右から、 野暢大副会頭(水野水産(株)代表取締役社長)、 菅原周二副会 頭((株)白寿殿代表取締役会長)、 (キクニ (株) 桑原茂会頭 代表取締役)、太田喜一郎副会頭(宮城マリンサービス(株)代 表取締役社長)、三浦一泰専務理事。会員企業の復興と地域活力 の再構築を目標に、さまざまな復興支援活動に取り組んできた

を決めているのが特徴です。 ディネーターが事前に商談の組み合わせ てきたもので、 175 件の商談が行われました。 ! が参加し、 自慢の商品を紹介、 成約率を上げるため、 地元企業42 合計 コー

社

社の関わりで育まれた多くの地場産品な きたい数多くの地域資源があります」と めています。「鹽竈神社をはじめ、 を再発見しようとする地域資源勉強会を 進委員会」では、平成25年から 『みなと塩竈』のイメージ向上を目指して マンにあふれた浦戸諸島、 塩竈には全国の方々に知っていただ 地域の魅力を掘り起こすとともに 会議所の「塩竈みなとブランド推 い視点や切り口で地域資源を 会議所専務理事の三浦一泰さ も開催。 自慢の地場産品を集めた 販路の拡大にも努 そして海と が市のお宝 歴史と 切さを訴えます。 るに当たり、 乗り越え、 力を活用し、

復興見本市」

ます。

また、

き上げ、 ド化を図り、 と今後のビジョンを描きます。 広く発信して地域全体のブラン 活力を取り戻していきたい

連業など、海と人との関わりを進化させ、 震災からの復興や商工業の活性化を考え こうした不屈の歩みは私たちの誇りであ 街の基礎となる商工業を育ててきました。 とを示しているとも言えるでしょう。 てきた災害を地域の英知と力を結集して してきました。その歴史は、繰り返し襲っ 人はこの地が有している内発的な多くの 大雨洪水被害など、数多くの災害に遭遇 「塩竈は、チリ地震津波や宮城県沖地震 道しるべでもあります」 新たな時代を作り上げてきたこ 漁業や水産加工業、 歴史を再認識することの大 と三浦さん。 港湾関 先





三浦一泰専務理事



震災後の会員企 業の販売促進を

開設

大久信広事務局長



平成 24 年 2 月、 グループ補助金説明会に85 名が詰めかけた



平成 26 年 10 月、再開した地場産品PRと消費拡大を目的 に県外各地で「塩竈物産展」を開催(写真は埼玉県三郷市)



平成25年5月、地域ブランド化事業の一環とし て、地域資源勉強会 " 蔵元見学会 " を実施

竈

〜観光による交流とにぎわいの創出

被災市民への食材供給として3月17日に開催した謝恩セールを経て、3月22日には営業を再開 観光施設の復旧・復興の先陣を切ったのは塩釜水産物仲卸市場。 「水産のまち塩竈」の健在振りを示しました。

4月29日には市内の寿司店の一部が被災を乗り越えて、その動きに続きました。



塩竈みなと祭り

の期間を要しました。

約43パーセントの減少となりました。 人から平成23年は133万人と、前年比 の、観光客数は平成22年の年間 232万 者の奮闘によって減少は抑えられたもの 交通機関の復旧や仮オープンなど、関係 光客が激減したのです。その後、施設や ら4・8パーセントも減少するなど、観 強い逆風にさらされました。平成23年4 風評被害が加わって、塩竈市の観光業は には福島第一原子力発電所の事故に伴う とする観光施設などが被害を受け、さら 〜8月期の市内観光客入込数が対前年か 震災によりマリンゲート塩釜をはじめ

塩釜水産物仲卸市場

17日に謝恩セールを開催した



3月

「塩竈の食 ・味」

早期完全復旧と観光 PR の強化 大型観光キャンペーンに向けた、

同日は市内の松島遊覧船(丸文松島汽船) から「復興市」のネーミングで仮オープン。 ウィークに合わせてテナントが5月1日 マリンゲート塩釜でしたが、ゴールデン 1階が浸水し、壊滅的な被害を受けた

観光客数は震災前年より減少 原発事故の風評被害もあり、 スティネーションキャンペーン」(以下、 組むことになりました。その中心はマリ 実施されることが決定。その準備に取り DC)、平成24年春にプレキャンペーンが の、グランドオープンまでには1年以上 害は大きく、仮オープンは果たしたもの の強化。しかし、マリンゲート塩釜の被 ンゲート塩釜の早期完全復旧と観光 PR

は、平成25年4~6月に「仙台・宮城ディ わいを見せました。直後の5月9日に の運航再開日でもあり、久しぶりににぎ

食べ歩き」は、震災による中断をはさん 間中に実施した「おいしおがま 初夏の 原子力発電所事故に伴う風評の払拭、水 ころを散策、体験していただくとともに、 で4年振りの復活で、多くの観光客を〝笑 まざまなイベントを開催。中でも DC 期 産業・水産加工業の振興も目的としたさ テーマとなりました。その一環として、 「塩竈の食・味」を知っていただくことが 観光 PR 事業では、塩竈の隠れた見ど と゛おいしさ゛でもてなしました。

■観光関係施設の復旧

◎マリンゲート塩釜 ◎塩竈観光物産案内所 平成24年7月1日グランドオープン 平成23年5月1日仮オープン

◎しおがま・まちの駅 平成24年9月28日

リニューアルオープン

リニューアルオープン

平成24年3月17日



9月13日~11月30日 親方特薦 ひがし

ものまぐろ祭り

観光に関するデータの比較(震災前・震災後)

■既元に関するナーダの比較 (辰火削・辰火後)						
	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年			
観光客数(人)	2,323,216	1,330,631	1,939,585			
鹽竈神社参拝客数(人)	945,000	823,000	959,000			
ホテル・旅館数 (施設) ※市観光物産協会加盟	3	3	3			
宿泊客数(人)	48,972	52,752	59,739			
浦戸諸島定期航路乗降客数(人)※定期券を除く	120,387	104,757	117,864			
松島遊覧船乗降客数(人)	458,237	159,833	327,964			
海水浴場利用者数(人)	7,387	(未開設)	(未開設)			
浦戸民宿数(軒)	14	14	10			
(桂島)	7	7	6			
(石浜)	4	4	2			
(寒風沢)	3	3	2			
浦戸民宿宿泊客数(人)	2,097	169	2,551			
マリンゲート塩釜入場者数(人)	1,190,800	464,000	871,800			
拉窦市統計書上 /						



12月1日

了 31 日

しおがま蔵出し

塩竈の醍醐味!」

10月27日・28日 第19回塩竈市観光物産展

10 月 14 日 7月1日

塩釜魚市場復興どっと祭り加 浦戸のりフェスティバル



マリンゲート塩釜「復興市」(平成 23 年 5 月 1 日)

10 月 16 日

塩釜魚市場復興どっと祭り 復興!全国「塩」サミット・田宮城

9 月 25 日

12月2日~31日 しおがま蔵出し

新酒まつり

◎平成24年

2 月 14 日

2 月 19 日

「S-1グランプリ

藻塩スイーツ祭Vol

2012塩釜フード復興見本市

◎平成23年

3 月 17 日

塩釜水産物仲卸市場

謝恩

■震災後に開催された「塩竈の食・味」

に関する主なイベント

○平成26年 ○平成25年 2 月 16 日 2月9日~11日 3月2日 2 月 5 日 12月1日~31日 しおがま蔵出し新酒ま 10月6日 5月24日~6月2日 「おいしおがま 3 月 10 日 2 月 20 日 ・ 19 日 ご当地!自慢の逸品グルメ 「日本一のしおがまおでん! 塩釜魚市場復興どっと祭りin 2013塩釜フード復興見本市 浦戸のりフェスティバル 海苔づくしな「塩竈浦戸プチ 2014塩釜フード見本市 塩竈うまいもん&ご当地! のりフェスティバル」 フェア 自慢の、逸品、フェア 大鍋まつり 2014」 第20回塩竈市観光物産展 「しおがまさま神々の花 灯りde酒蔵めぐり_ 「塩竈の醍醐味!」 新酒まつり 2012 初夏の食べ歩き」



松島遊覧船の運航再開 (平成23年5月1日)

震災前以上の観光客数を実現 広域連携やイベントの創出で、

自治体との交流事業の推 職員派遣を縁とした

進

う継続して進めていきます。 販売などを行う交流事業にも取り組んで 当たり、 を一層深め、交流の輪がさらに広がるよ る方々も見られるようになりました。絆 い言葉をいただくとともに、 います。 気持ちを伝えながら観光 PR や特産品の として生まれた地域間交流の芽を大切に 派遣していただいています。それを契機 補うため、全国各地の自治体から職員を 震災からの復旧・復興事業を進めるに 派遣元である自治体を訪問、 専門的知識をもつ職員の不足を 訪問先では多くの方々から温か 本市を訪 感謝の

> の関係団体とともに取り組みます。 覧会場、店舗・施設をパビリオンに見立 計画されています。これは市内全体を博 を中心に「(仮称) みなと塩竈ゆめ博」が 発信する絶好の機会と捉え、会議所ほか 市では仙台圏に住む方々に塩竈の魅力を 食などを学び楽しんでいただくものです。 てた新しいイベントで、塩竈の歴史・文化・ 平成27年度に向けては、塩釜商工会議所

島、湾、ダーランド構想」が誕生しました。 機的に結びつけたテーマ性やストーリー 進協議会」に参画しました。 また、平成26年には「伊達な広域観光推 性のある観光地づくりを行う「再発見!松 源の発掘と磨き上げを行い、これらを有 島」の魅力を超えた、松島湾全体の観光資 利府町)と宮城県が連携し、「日本三景松 美しい湾クラブ」へ国内で初めて加盟し 多賀城市、東松島市、松島町、七ヶ浜町、 たことを契機に、周辺3市3町(塩竈市、 平成25年12月、 松島湾が「世界で最も

の復帰に止まらず、 うとする現在、先の構想や協議会に参画す 大と経済効果、にぎわいの創出を図ります。 たな観光需要の発掘に取り組み、 旅行プラン開発などに力を入れています。 新 る自治体と連携した広域観光ルート、教育 DC が終了し、震災から約4年を迎えよ より|層の交流人口の拡 震災前へ